

文系学生の就職不安とその解消方策 — 名古屋大学学生への質問紙調査の結果から —

長縄 祐里・寺田 盛紀

1. はじめに

本研究は、名古屋大学文系学部生を対象としたアンケート調査を通して、大学生の職業選択および就職に対する不安の実態とその解消過程およびそれへの影響要因、とくに大学のキャリア支援の効果との関連の一端を明らかにすることを目的としている。

わが国の大学性の就職不安に関するおもに心理学分野の研究として、坂柳(1996,1997)、藤井(1999)、清水・花井(2008)などに見られるが、その解消過程(時間軸の設定)や解消方策を視野に入れた研究が少なかった。また、それらの尺度構成も今日的な将来不安の様相から再検討されるべき点が含まれている。

そこで、本研究では、主として坂柳の就職不安に関する尺度に筆者の仮説的な尺度を加え、収縮活動前後の不安観の探索的因子分析結果(因子パターン)の比較、不安解消とキャリア支援希望との関連を考察することにした。

2. 調査の概要

2-1. 調査対象と方法

調査対象者は、民間企業への就職活動を経験した名古屋大学文系学部4年生268名である。事柄の性格上、一定のサンプリング方にもとづく対象者の抽出が不可能であったので、それは筆者が知りうる協力者に近い学生に限定されている。

理系学部の学生は大学院進学という選択をする就職活動未体験の学生が多いため、文系学部の学生を対象とする。また、公務員試験等のみの就職活動経験者は対象外とした。

回答者の男女別内訳をみると、男性64名(44%)、女性83名(56%)であった。また、学部別には、文学部38名(25.9%)、教育学部22名(15.0%)、法学部25名(17.0%)、経済学部50名(34.0%)、情報文化学部(社会システム情報学科のみ)12名(8.2%)という結果であった。

調査は、基本的に留め置き法によった。回収しえた

質問紙は147部であった(回収率58.2%)。なお、データ処理・解析のために、SPSS14.0 for Windowsを使用した。

2-2. 調査時期

調査は、2010年10月から2010年11月までの2ヶ月の間に行った。

2-3. 質問項目

質問紙・項目は以下のような項目手順で作成した。

問1 回答者の年齢、性別、学年、学部・学科

問2 就職活動状況

就職活動開始時期、②就職活動終了時期、③開始時期の志望業界、④終了時期の志望業界、⑤内定業界、⑥就職先業界、⑦エントリーを行った企業数、⑧面接を受けた企業数、⑨内定をもらった企業数

問3 就職活動満足度

問4 就職活動以前および活動中における不安要素について

問5 就職活動の不安因子解消(軽減)方法ならびに未解消事項

問6 不安因子解消(軽減)のための大学における有効なキャリア支援について

表1 職業的不安尺度の領域と項目

職業的不安尺度の領域と項目	(R:逆転項目)
<自己理解不安>	
R1. 自分自身のことはよく分かっているので、それほど不安を感じていない。	
8. 希望する職業に自分は向いているのかどうか、不安である。	
15. 自分の能力がどんな職業に向いているかわからないので、不安を感じる。	
22. 自分はどの職業にも興味が持てないような気がして、心配である。	

29. 自分の短所ばかりが気になるので、就職に不安を感じる。

<職業情報不安>

2. 職業選択や就職に関する正確で新しい情報が足りないので、不安を感じる。

R9. 就職先を決める資料・情報はかなり持っているのに、特に不安は感じない。

16. 就職試験がどのように行われているのか、はっきりわからないので不安である。

23. 他の人が自分よりも就職について詳しいと不安になる。

30. 就職や職業生活に関する知識がまだ乏しいので、不安を感じる。

<経験欠如不安>

3. 労働経験があまりないので、職業選択に不安を感じる。

10. 今の自分では就職しても仕事をこなすだけの力がないので心配になる。

R17. これまでに働く経験をしており、働くことそれ自体については心配がない。

24. 職業選択に役立つ経験をしたことがないので、就職に不安を感じる。

31. 職場の状況を実際に見たことがないので心配である。

<相談欠如不安>

4. 将来の職業について率直に相談できる人があまりいないので不安である。

11. 就職や職業のことで、他の人と相談する機会が少ないので不安である。

18. 就職や職業の悩みはあまり他の人に話さないのに、不安を感じる。

R25. 就職ではいろいろな人に相談にのってもらっており、あまり不安は感じない。

32. 職業選択に関して、今まで他の人と十分に話し合っていないので不安である。

<選択決定不安>

5. どのようにして職業を決めればよいのかわからないので不安である。

12. 希望する職業はあるが、これが最良なのかどうか不安に感じる。

19. 社会変化や景気変動が希望職業に大きな影響を与えるのではないかと心配だ。

26. 自分は就職できないのではないかと心配になる。

R33. 職業選択は十分に考えたうえでっており、あまり気にならない。

<職業適応不安>

R6. 就職後の生活には、あまり不安を感じていない。

13. 職業に就いた後、自分を十分に生かすことができるかどうか心配である。

20. 就職してもうまくいかないことがありそうで、それを考えると不安になる。

27. 職場の人間関係は気を使うので、不安である。

34. 就職しても、長く雇ってもらえるかどうかかわからないので、不安である。

問4については、坂柳（1996）が「大学生の職業的不安に関する研究」で用いた職業的不安尺度 (Occupational Anxiety Scale: 略称 OAS) を使用した (表1)。

また、新たに「将来設計不安」因子が抽出しうるのではないかと仮定し、それに関連する5項目を作成し追加した。追加した項目は以下の通りである。

<自己理解不安>

7. 仕事生活における長期的な見通しが立っていないので不安である。8. 希望する職業に自分は向いているのかどうか、不安である。

R14. 自らのキャリアビジョンは明確で、職業生活に対しての不安は感じない。

21. 結婚や育児等のライフイベントと仕事をうまく両立させることができるか不安である。

28. 職業に就いた後、何を目標にして働けばよいのか分からず不安である。

35. 将来、どんな職業生活を送っていくべきか定まらず不安である。

以上の35項目により「就職不安尺度」を作成し、使用する。5段階評価で回答を得ることにした。

問5については、問4の就職不安尺度の35項目の中から、特に不安に感じた項目を最大2つまで回答してもらい、その不安項目が解消されたか否かを調査する。そして解消された場合は、その解消方法を選択してもらい回答を得る。

問6は、坂柳（1996）が「大学生の職業的不安に関する研究」で用いた大学進路指導への要望度調査の下記5項目を使用する。

大学進路指導への要望度

1. 自己理解に役立つ検査やその指導
2. 就職や進路に関する種々の情報提供
3. 職業的経験に関する機会の提供
4. 就職や進路に関するカウンセリング
5. 人生設計や生き方に関する指導

また、新たに3項目を作成し追加した。追加した項目は以下の通りである。

6. 共通教育等での教養を広げ、高めること
7. 専門課程の授業での知識・技術の強化
8. その他

以上の8項目により「大学におけるキャリア支援項目」を作成し、使用した。この8項目の中から特に必要だと感じるもの一つを選択してもらい、回答を得た。

3. 就職不安感の因子分析結果

まず、1番目の分析として、就職不安尺度35項目について、就職活動以前と活動中(経験後)の2つに分けて因子分析を行った。

3-1. 就職活動前の不安尺度の因子分析

35項目に関して主因子法とその後のPromax回転による因子分析を行った。固有値(1.0以上)、スクリー図、因子のまとまり等の点から、4因子を抽出した。第1因子から第4因子までの固有値は、それぞれ10.38、2.15、1.99、1.49であった。その因子パターンを表2の上図に示す。十分な因子負荷量(0.35以上)を示さなかった7項目を残余項目として、以降の分析から除外した。

第1因子は9項目で構成されており、「就職や職業生活に関する知識がまだ乏しいので不安」など、職業に関する情報の乏しさや労働経験の欠如に起因する不安の項目が高い負荷量を示していた。そこで「職業情報不安」因子と命名した。

第2因子は8項目で構成されており、「今の自分では就職しても仕事をこなすだけの力がないので心配」など、職業や職場にうまく適応できるか否かの不安、そして自分の能力をその職業や職場でうまく発揮することができるか否かの不安の項目が高い負荷量を示していた。そこで「職業適応不安」因子と命名した。

第3因子は7項目で構成されており、「自分の能力が

どんな職業に向いているかわからないので、不安」など、職業に対して自分の能力が生かせるのか否かの不安、自分に適性があるのか否かの不安の項目が高い負荷量を示していた。そこで「自己適性不安」因子と命名した。

第4因子は5項目で構成されており、「就職や職業の悩みはあまり他の人に話さないで不安」など、就職や職業の悩みについて相談できる相手の欠如に起因する不安の項目が高い負荷量を示していた。そこで「相談欠如不安」因子と命名した。

3-2. 就職活動中(経験後)の不安因子

同様に、就職活動中(経験後)の分析を行い、4因子を抽出し、表2下図のような結果が得られた。第1因子から第4因子までの固有値は、それぞれ13.12、2.60、1.89、1.44であった。十分な因子負荷量(0.35以上)を示さなかった3項目を残余項目として、以降の分析から除外した。

第1因子は16項目で構成されており、「将来、どんな職業生活を送っていくべきか定まらず不安」など、就職して職業生活に至る将来的な見通しを描くことができないという不安の項目が高い負荷量を示していた。そこで「将来設計不安」因子と命名した。

第2因子は6項目で構成されており、問4(1)の第3因子と同様に、就職や職業の悩みについて相談できる相手の欠如に起因する不安の項目が高い負荷量を示していた。そこで「相談欠如不安」因子と命名した。

第3因子は6項目で構成されており、問4(1)の第1因子と同様に、職業に関する情報の乏しさや労働経験の欠如に起因する不安の項目が高い負荷量を示していた。そこで「職業情報不安」因子と命名した。

第4因子は4項目で構成されており、「自分自身のことはよく分かっているのに、それほど不安を感じていない(逆転項目)」「職業選択は十分に考えたうえでしており、あまり気にならない(逆転項目)」など、自分の適性や職業の情報から、どのような職業選択を行えばよいかわからないという不安の項目が高い負荷量を示していた。そこで「選択決定不安」因子と命名した。

その後の分析のために、就職不安4尺度の下位尺度に相当する項目の平均値を算出した。また、内的整合性を検討するために各下位尺度の α 係数を算出したところ、すべての尺度において十分な値(0.76-0.92)が得られた。結果は以下の通りである(表3)。さらに、就職不安の尺度間相関も合わせて示す。就職活動経験の前後とも、4つの尺度は互いに有意な正の相関を示した。

表 2 就職活動前後の因子パターンの比較表

就職不安尺度の因子分析結果（Promax回転後の因子パターン）							
問 4（1）就職活動以前の不安因子							
	項目内容	I	II	III	IV	共通性	平均値 SD
a①職業情報不安	a26自分は就職できないのではないかと心配	0.68	0.01	0.09	-0.12	0.48	3.37 1.42
	a18就職試験がどのように行われているのか、はっきりわからないので不安	0.58	-0.06	0.02	-0.01	0.31	3.52 1.28
	a30就職や職業生活に関する知識がまだ乏しいので、不安	0.58	0.09	0.11	-0.06	0.46	3.68 1.03
	a24職業選択に役立つ経験をしたことがないので、就職に不安	0.55	0.15	-0.06	0.19	0.52	3.05 1.30
	a23他の人が自分よりも就職について詳しいと不安	0.52	-0.02	-0.07	0.19	0.34	3.31 1.33
	a32職業選択に関して、今まで他の人と十分に話し合っていないので不安	0.50	0.05	-0.10	0.33	0.49	2.78 1.15
	a31職場の状況を実際に見たことがないので心配	0.49	0.24	-0.05	-0.06	0.34	3.52 1.13
	Ra33職業選択は十分に考えたうえでやっており、あまり気にならない	0.46	-0.20	0.28	0.12	0.41	3.62 1.06
	a27職場の人間関係は気を使うので、不安	-0.05	0.70	-0.12	0.10	0.45	2.99 1.25
	a10今の自分では就職しても仕事をこなすだけの力がないので心配	0.20	0.55	0.06	-0.17	0.41	2.98 1.13
a②職業適応不安	a28就職に就いた後、何を目標にして働けばよいのか分らず不安	0.23	0.55	-0.09	0.14	0.53	2.60 1.20
	a34就職しても、長く雇ってもらえるかどうかわからないので、不安	-0.34	0.48	0.09	0.14	0.23	2.54 1.16
	a20就職してもうまくいかないことがありそうで、それを考えると不安	0.15	0.47	0.06	0.14	0.46	3.26 1.25
	a13就職に就いた後、自分を十分に生かすことができるかどうか心配	-0.10	0.43	0.39	-0.02	0.41	3.18 1.14
	a21結婚や育児等のライフイベントと仕事をうまく両立させることができるか不安	0.23	0.41	0.01	-0.20	0.24	3.42 1.29
	a29自分の短所ばかりが気になるので、就職に不安	0.19	0.38	0.03	0.16	0.39	2.78 1.29
	a12希望する職業はあるが、これが最良なのかどうか不安	-0.27	0.17	0.64	0.10	0.41	3.34 1.22
	Ra14自らのキャリアビジョンは明確で、職業生活に対しての不安は感じない	0.15	-0.05	0.60	-0.08	0.41	3.86 1.07
	a5どのようにして職業を決めればよいかわからないので、不安	0.22	-0.19	0.53	0.23	0.52	3.47 1.28
	a15自分の能力がどんな職業に向いているかわからないので、不安	0.27	0.02	0.52	0.03	0.55	3.40 1.14
a③自己適性不安	a8希望する職業に自分は向いているのかどうか、不安	-0.08	0.37	0.51	-0.09	0.47	3.32 1.32
	Ra9就職先を決める資料・情報はかなり持っている、特に不安は感じない	0.42	-0.07	0.44	-0.09	0.48	3.93 1.00
	a7仕事生活における長期的な見通しが立っていない	0.06	0.34	0.37	-0.02	0.42	3.18 1.28
	a18就職や職業の悩みはあまり他の人に話さないで、不安	-0.09	0.14	-0.05	0.78	0.63	2.45 1.18
	a11就職や職業のことで、他の人と相談する機会が少ないので不安	-0.10	0.04	0.00	0.75	0.52	2.52 1.18
	a4将来の職業について事実に相談できる人がいないので、不安	-0.04	-0.06	0.21	0.67	0.52	2.79 1.23
	Ra25就職ではいろいろな人に相談のつてもらっており、あまり不安は感じない	0.27	-0.23	0.08	0.44	0.32	3.38 1.06
	a22自分ほどの職業にも興味を持てないような気がして、心配	0.23	0.20	-0.13	0.36	0.34	2.54 1.36
	Ra17これまでに働く経験をしており、働くことそれ自体については心配がない	0.34	0.15	0.10	-0.08	0.22	3.88 1.19
	Ra9就職後の生活には、あまり不安を感じていない	0.31	0.15	0.19	-0.12	0.24	3.29 1.31
残余項目	a35将来、どんな職業生活を送っていくべきか定まらず不安	0.23	0.28	0.20	0.06	0.39	3.16 1.20
	a19社会変化や景気変動が希望職業に大きな影響を与えるのではないかと心配	0.02	0.26	0.02	-0.01	0.08	3.59 1.29
	a3労働経験があまりないので職業選択に不安を感じる	0.05	0.10	0.33	0.18	0.28	3.36 1.28
	Ra1自分自身のことはよく分かっている、それほど不安を感じていない	0.28	-0.14	0.32	0.02	0.24	3.69 1.19
	a2職業選択や就職に関する正確で新しい情報が足りない、不安	0.15	0.05	0.31	0.01	0.20	3.61 1.18
問 4（2）就職活動中の不安因子							
	項目内容	I	II	III	IV	共通性	平均値 SD
b①将来設計不安	b35将来、どんな職業生活を送っていくべきか定まらず不安	0.76	0.25	-0.19	0.05	0.70	3.09 1.29
	b28就職に就いた後、何を目標にして働けばよいのか分らず不安	0.70	0.18	0.09	-0.31	0.55	2.75 1.29
	b10今の自分では就職しても仕事をこなすだけの力がないので心配	0.67	-0.18	-0.01	0.14	0.45	3.01 1.18
	b13就職に就いた後、自分を十分に生かすことができるかどうか心配	0.65	-0.07	0.09	0.09	0.53	3.29 1.23
	b20就職してもうまくいかないことがありそうで、それを考えると不安	0.61	-0.01	0.16	0.04	0.55	3.33 1.29
	b21結婚や育児等のライフイベントと仕事をうまく両立させることができるか不安	0.58	-0.11	0.17	0.00	0.41	3.38 1.35
	b34就職しても、長く雇ってもらえるかどうかわからないので、不安	0.54	0.40	-0.19	-0.08	0.47	2.50 1.31
	b27職場の人間関係は気を使うので、不安	0.52	0.02	0.42	-0.37	0.49	3.03 1.37
	b15自分の能力がどんな職業に向いているかわからないので、不安	0.51	-0.01	0.04	0.35	0.60	3.27 1.23
	b7仕事生活における長期的な見通しが立っていない	0.50	0.25	-0.11	0.09	0.42	3.16 1.22
b②相談欠如不安	b8希望する職業に自分は向いているのかどうか、不安	0.48	0.23	-0.12	0.28	0.54	3.43 1.34
	Rb6就職後の生活には、あまり不安を感じていない	0.45	-0.23	0.19	0.12	0.31	3.25 1.30
	b12希望する職業はあるが、これが最良なのかどうか不安	0.43	0.04	0.02	0.32	0.48	3.47 1.33
	b29自分の短所ばかりが気になるので、就職に不安	0.39	0.15	0.23	0.10	0.52	2.88 1.34
	b19社会変化や景気変動が希望職業に大きな影響を与えるのではないかと心配	0.37	0.02	0.16	0.06	0.28	3.58 1.31
	b31職場の状況を実際に見たことがないので心配	0.35	-0.02	0.34	0.01	0.37	3.24 1.31
	b18就職や職業の悩みはあまり他の人に話さないで、不安	-0.12	0.89	0.13	-0.20	0.74	2.42 1.29
	b4将来の職業について事実に相談できる人がいないので、不安	-0.06	0.82	0.06	0.04	0.70	2.38 1.25
	b11就職や職業のことで、他の人と相談する機会が少ないので不安	0.04	0.75	0.03	0.03	0.66	2.38 1.17
	b32職業選択に関して、今まで他の人と十分に話し合っていないので不安	0.08	0.74	0.01	0.02	0.65	2.45 1.08
b③職業情報不安	b22自分ほどの職業にも興味を持てないような気がして、心配	0.30	0.45	0.02	-0.09	0.40	2.33 1.27
	Rb25就職ではいろいろな人に相談のつてもらっており、あまり不安は感じない	-0.28	0.40	0.27	0.39	0.47	3.03 1.24
	b24職業選択に役立つ経験をしたことがないので、就職に不安	0.10	0.07	0.68	0.00	0.62	2.91 1.29
	b3労働経験があまりないので職業選択に不安を感じる	0.24	-0.08	0.62	-0.05	0.50	2.88 1.27
	b2職業選択や就職に関する正確で新しい情報が足りない、不安	0.01	0.14	0.56	0.03	0.46	3.06 1.19
	b30就職や職業生活に関する知識がまだ乏しいので、不安	0.15	0.13	0.51	0.05	0.52	3.20 1.29
	b23他の人が自分よりも就職について詳しいと不安	-0.13	0.21	0.46	0.18	0.40	3.16 1.39
	b16就職試験がどのように行われているのか、はっきりわからないので不安	0.00	0.12	0.35	0.05	0.21	2.86 1.36
	Rb1自分自身のことはよく分かっている、それほど不安を感じていない	-0.01	-0.11	0.02	0.71	0.46	3.28 1.20
	Rb14自らのキャリアビジョンは明確で、職業生活に対しての不安は感じない	0.35	-0.14	-0.18	0.67	0.58	3.63 1.14
b④選択決定不安	Rb33職業選択は十分に考えたうえでやっており、あまり気にならない	-0.10	0.18	0.04	0.62	0.45	3.18 1.27
	Rb9就職先を決める資料・情報はかなり持っている、特に不安は感じない	0.07	-0.09	0.20	0.57	0.48	3.47 1.12
	Rb17これまでに働く経験をしており、働くことそれ自体については心配がない	0.29	-0.14	0.15	0.17	0.20	3.67 1.16
	b26自分は就職できないのではないかと心配	0.11	-0.04	0.39	0.31	0.43	3.48 1.55
	b5どのようにして職業を決めればよいかわからないので、不安	0.13	0.28	0.19	0.31	0.52	3.07 1.34

表 3 因子間の相関

就職不安の下位尺度間相関と平均、SD、 α 係数							
問 4（1）							
	a①職業情報不安	a②職業適応不安	a④自己適性不安	a④相談欠如不安	平均値	標準偏差	α
a①職業情報不安	—	0.58**	0.63**	0.55**	3.36	0.83	0.84
a②職業適応不安		—	0.59**	0.50**	2.97	0.78	0.80
a③自己適性不安			—	0.44**	3.49	0.83	0.83
a④相談欠如不安				—	2.73	0.86	0.76
**p<.01							
問 4（2）							
	b①将来設計不安	b②相談欠如不安	b③職業情報不安	b④選択決定不安	平均値	標準偏差	α
b①将来設計不安	—	0.61**	0.68**	0.56**	3.16	0.87	0.92
b②相談欠如不安		—	0.65**	0.36**	2.50	0.95	0.87
b③職業情報不安			—	0.48**	3.01	0.94	0.82
b④選択決定不安				—	3.40	0.90	0.76
**p<.01							

3-3. 就職活動経験前後の不安感の比較

この2つの因子分析から重要なことが読み取れる。就職活動前後において、職業情報不安や相談欠如不安が変わらず残存しているのに対して、就職活動後には、職業適応不安や自己適性不安がなくなり、代わって将来設計不安が付加していることである。就職活動経験が適応や適性の面での不安を解消することに役立っていること、しかし就職活動を経験したからこそ、将来設計への不安を呼び起こしていることがわかる。

「就職活動中の不安因子」に関しては、将来設計不安下位尺度 ($t(143)=5.98, p<.001$)、職業情報不安下位尺度 ($t(145)=3.53, p<.001$)、選択決定不安下位尺度 ($t(144)=5.46, p<.001$) の3つの尺度において男性よりも女性の方が有意に高い得点を示していた。相談欠如不安下位尺度については男女の得点差は有意ではなかった ($t(145)=1.60, n.s.$)。

全般的に女子学生の方が就職活動前後のいずれにおいても、不安感が高いことがわかる。

4. 性別および学部別の分析

つぎに、このような不安因子を規定している事柄を見つけ出すために、性別と学部別の観点から分析を行った。

4-1. 男女別比較

男女差の検討を行うために、就職不安の各下位尺度得点についてt検定を行った。

その結果、「就職活動以前の不安因子」に関しては、職業情報不安下位尺度 ($t(143)=4.30, p<.001$)、職業適応不安下位尺度 ($t(145)=4.66, p<.001$)、自己適性不安下位尺度 ($t(143)=4.35, p<.001$)、相談欠如不安下位尺度 ($t(144)=2.99, p<.001$)、のすべての尺度において男性よりも女性のほうが有意に高い得点を示していた(表4)。

4-2. 学部別比較

また、大学人としてもっとも大きい関心事は、このような就職・職業意識に学部差が存在するのかどうかということである。今回は理系学部を除いているので、文系学部間の差異について検討することになる。そのために、「文教グループ(文学部・教育学部)」と、「法経グループ(法学部・経済学部)」の2つに分け、就職不安の各下位尺度得点についてt検定を行った。

その結果、「就職活動以前の不安因子」の中の「自己適性不安」においてのみ、法経よりも文教の方が有意 ($t(131)=3.06, p<.001$) に高い得点を示した(表5)。文系学部間では各下位尺度において大差はないが、適性不安においてのみ、文系の中の教養系と文系の中の実学系との間に、微妙な差が存在するということである。

表4 就職活動前と就職活動後の不安尺度による性別比較

男女別の平均値とSDおよびt検定の結果					
	女性		男性		t 値
	平均	SD	平均	SD	
a①職業情報不安	3.60	0.82	3.04	0.73	4.30***
a②職業適応不安	3.21	0.81	2.66	0.62	4.66***
a③自己適性不安	3.74	0.78	3.17	0.79	4.35***
a④相談欠如不安	2.91	0.85	2.49	0.82	2.99***
b①将来設計不安	3.51	0.82	2.72	0.73	5.98***
b②相談欠如不安	2.61	1.01	2.36	0.85	1.60(ns)
b③職業情報不安	3.24	0.97	2.71	0.80	3.53***
b④選択決定不安	3.72	0.78	2.97	0.87	5.46***
*p<.05, ***p<.001 ns 有意差なし					

表5 就職活動前と就職活動後の不安尺度ごとの学部別比較

学部別の平均値とSDおよびt検定の結果					
	文教		法経		t 値
	平均	SD	平均	SD	
a①職業情報不安	3.45	0.72	3.27	0.89	1.22(ns)
a②職業適応不安	3.10	0.79	2.88	0.78	1.58(ns)
a③自己適性不安	3.70	0.84	3.27	0.79	3.06***
a④相談欠如不安	2.87	0.80	2.62	0.89	1.68(ns)
b①将来設計不安	3.30	0.83	3.02	0.91	1.86(ns)
b②相談欠如不安	2.51	0.92	2.52	0.97	-0.07(ns)
b③職業情報不安	3.04	0.87	3.00	0.99	0.25(ns)
b④選択決定不安	3.54	0.86	3.28	0.91	1.67(ns)
*p<.05, ***p<.001 ns 有意差なし					

5. 大学のキャリア支援への要望と就職不安感との関連分析

つぎに、近年全国の大学で推進されている大学のキャリア支援がこのような学生のキャリア意識、就職意識の形成に有効であるための方策を探るために、希望するキャリア支援方策と就職不安感との関連を分析した。

5-1. 大学におけるキャリア支援への要望

名古屋大学の文系学生が要望しているキャリア支援の内容とその程度についての集計結果を以下に示す(図1)。最も要望度が高いのは「就職や進路に関する種々の情報提供」で、ついで「就職や進路に関するカウンセリング」、「自己理解に役立つ検査やその指導」という結果となった。

5-2. 就職不安と大学キャリア支援への要望との関連：2要因分散分析

就職活動前と就職活動経験後の合計8つの就職不安因子を従属変数として、大学キャリア支援・性別の2要因による分散分析を行ったところ、「b④選択決定不安」と「大学キャリア支援＊性別」についてのみ、有意な交互作用がみられた($F=3.28, p<.01$) (表6)。やはりここでも男子学生よりも女子学生の方が、選択決定を行う際の不安が高く、かつ「職業的経験に関する機会の提供」や「就職や進路に関するカウンセリング」を大学のキャリア支援に求めていることが明らかになった。

図1 大学におけるキャリア支援への要望

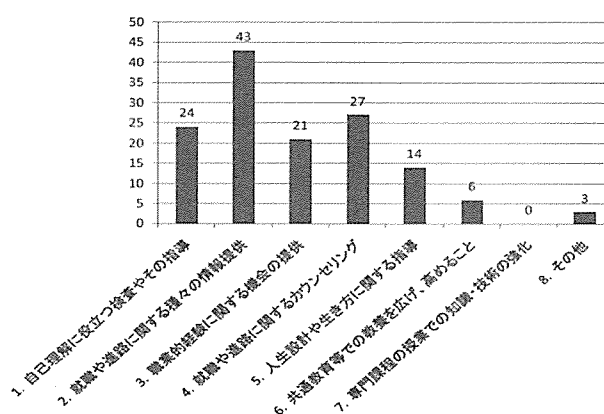


表6 就職不安とキャリア支援＊性別の分散分析

就職不安因子と大学キャリア支援＊性別による分散分析結果					
変動因	従属変数	平方和	自由度	平均平方	F 値
大学キャリア支援	a①職業情報不安	2.39	5	0.48	0.79
	a②職業適応不安	1.60	5	0.32	0.57
	a③自己適性不安	1.69	5	0.34	0.51
	a④相談欠如不安	2.99	5	0.60	0.79
	b①将来設計不安	1.85	5	0.37	0.57
	b②相談欠如不安	4.16	5	0.83	0.87
	b③職業情報不安	1.97	5	0.39	0.47
	b④選択決定不安	4.26	5	0.85	1.42
大学キャリア支援＊性別	a①職業情報不安	3.87	5	0.77	1.28
	a②職業適応不安	1.64	5	0.33	0.58
	a③自己適性不安	2.32	5	0.46	0.70
	a④相談欠如不安	0.87	5	0.17	0.23
	b①将来設計不安	4.12	5	0.82	1.27
	b②相談欠如不安	4.20	5	0.84	0.88
	b③職業情報不安	5.53	5	1.11	1.31
	b④選択決定不安	9.85	5	1.97	3.28**
*p<.05 **p<.01					

5-3. 不安解消・未解消のグループ間ごとのキャリア支援との関連

さらに、就職不安感の解消にとって、どのようなキャリア支援策が有効であるかどうかを検討するために、不安解消グループと未解消グループ間では、キャリア支援への要望に差があるかどうかの分析を行った。

就職活動前の4つの不安因子（職業情報不安、職業適応不安、自己適性不安、相談欠如不安）から代表的な項目をそれぞれ一つずつピックアップし、その項目において不安解消グループ（以下、解消G）と不安未解消グループ（以下、未解消G）の2つに区分した。グループ分けにあたって、各項目において活動前と活動中の得点の差（「活動中の得点」－「活動前の得点」）を出し、その差が－1以下になったものを解消G、0以上になったものを未解消Gとした。その上で、2×2の分割表に基づくフィッシャー検定を行い、解消Gと未解消Gにおけるキャリア支援への要望の差異に注目した。結果は以下の通りである。

フィッシャーのLSD検定による多重比較の結果、職業情報不安因子の項目「30. 就職や職業生活に関する知識がまだ乏しいので、不安」の解消G・未解消Gと、キャリア支援項目「1. 自己理解に役立つ検査やその指導」においてのみ、5%水準で有意な差が認められた（表7）。職業情報に対しての不安が解消されないグループの方が、解消されたグループよりも自己理解についての支援を求める傾向があることが明らかとなった。逆に言うと、不安未解消Gは、とくに就職や職業知識が不足していることに不安感を有しており、そのような理由から自己理解の面で躓いている、あるいは当然と言うべきであるが、自分探しを続けているということでもある。不安感解消には単純に自己理解、とはならないことに注目できる。

6. 考察とまとめ

6-1. 就職活動前後の不安感

就職活動前後の2つの因子分析結果の比較から、就職活動前後において、職業情報不安や相談欠如不安が変わらず残存しているのに対して、就職活動後には、職業適応不安や自己適性不安がなくなり、代わって将来設計不安が付加していることである。就職活動経験が適応や適性の面での不安を解消することに役立っていること、しかし就職活動を経験したからこそ、将来設計への不安を呼び起こしていることが明らかになった。

1点目に、職業や就職活動について「わからないこと」に起因する「職業情報不安」因子についてである。就職活動の時期をむかえるまでに、学生が職業や就職活動の情報を十分に得ることのないまま活動を開始している状況がうかがえる。就職活動を開始する以前において、学生が職業や働くことに関しての情報が得られる機会が乏しいことが問題となっていると考えられる。

2点目に、「職業適応不安」因子および「自己適性不安」因子についてである。自分が希望する職業に向いているのかどうか、うまく職場に馴染み、そして自分の力を発揮することができるのかなど、職業生活を想定しての不安が見られた。上記にあげた職業に関する情報の乏しさゆえに、職業生活に対する漠然とした不安が生まれると考えられる。

就職活動中（経験後）の不安について考察すると、1点目に、「将来設計不安」因子についてである。これは、就職活動を始めてからようやく仕事生活を含めた将来ビジョンについて考えるようになったことや、就職活動を通じて希望職業に変化が生じ、今後の進路や職業選択についての迷いが生まれたことなどが要因であると考えられる。この結果は、就職活動を始める前の段

表7 キャリア支援希望の内容と職業情報不安解消・未解消との関連（有意差検定）

検定	値	自由度	漸近有意確率(両側)	正確有意確率(両側)	正確有意確率(片側)
Pearson のχ ² 乗	5.250	1	0.022		
連続修正(a)	4.244	1	0.039		
尤度比	5.600	1	0.018		
Fisher の直接法				0.036*	0.018
線型と線型による連関	5.211	1	0.022		
有効なケースの数	134				
*p<.05					

階一小・中・高等学校を含め一における職業観形成の不十分さを示唆しているのではないか。大学の下位学年やそれ以前の段階において、職業観形成を促すキャリア教育の必要性が問われている。

2点目に、「職業情報不安」因子についてである。活動前は職業や就職活動の方法についての知識不足という面が強いが、活動中は、因子の上位項目から、それらに加え労働経験のなさ起因する不安という面が大きいと推察される。就職活動を行い、企業の情報をある程度得ることができても、実際の職場の様子までは分からず、働くイメージを具体化することが困難であるからだと考えられる。また、多くの学生はアルバイトやインターンシップなどで“働くこと”自体の経験はあるが、職業選択を行う上でのより“幅広くかつ実践的な”経験が不足していることも要因としてあげられる。

3点目に、「選択決定不安」因子についてである。就職活動を通じて得られた多くの職業情報からどれを選択し決定すべきなのか、ひいては将来設計を含めた進路に対しての迷いに起因していると考えられる。そして、自分に対しての理解や、職業情報の不足など、幅広い要因がこの不安を形成していると推察される。

一方、「相談欠如不安」は就職活動前と活動中の両方において存在している。就職活動以前、活動中に関わらず、人生設計や職業選択、そして就職活動を行う上で「相談相手」が必要であり、そしてそのことを相談できる相手がいないという現状がうかがえる。非常に孤独な状況で職業選択や就職活動が行われており、この不安が他の不安にも大きな影響を及ぼしているのではないか。

以上をまとめると、就職活動以前と活動中において、職業等に関する知識・経験不足による、就職や職業生活に対しての漠然とした不安から、卒業後の家庭生活、職業生活を含めた人生設計に対しての不安に変化するといえる。一方で、相談相手の欠如による不安は就職活動の前後に関わらず存在することが明らかとなった。

6-2. 大学におけるキャリア支援への要望と就職不安因子との関連

個々のキャリア支援策への希望状況から見ると、「就職や進路に関する種々の情報提供」が最も高かった。ついで「就職や進路に関するカウンセリング」、「自己理解に役立つ検査やその指導」が続く。

インターネットの普及により、以前よりも簡単に早く情報が得られる一方で、情報量の膨大さゆえに、正

確な情報の見極めが困難となっていることが要因だと考えられる。問6に寄せられた回答の中に、「個別の説明会で各企業が言わないような業界の実情や仕事内容をしっかりと筋からの情報で教えてほしい」というものが見られたことから、大学からの詳細な情報提供への期待を抱く学生が多いことがわかる。

また、「就職や進路に関するカウンセリング」への要望が2番目に高いことについて、キャリア支援の問題点が浮かび上がる。名古屋大学を含め、各大学の就職相談体制は必ずしも十分ではない。十全なキャリアカウンセラーの配置が求められる。さらに、相談相手となるのはキャリアカウンセラーだけではない。大学のOB・OGや教授との関わり、そして社会経験のある外部講師との関わりなども、社会経験が豊富であり、かつ客観的なアドバイスを与えてくれる相談相手となりうる点で不安の解消に有効だと考えられる。

就職不安解消にかかわって、大学のキャリア支援希望との関連をみると、性と大学キャリア支援の分散分析から、「選択決定不安」因子においてのみ有意差がみられた。女性が選択決定不安の解消のために「職業的経験に関する機会の提供」や「就職や進路に関するカウンセリング」を求めるのに対し、男性は「人生設計や生き方に関する指導」や「共通教育等での教養を広げ、高めること」を求める傾向が見られた。また、他の項目においても女性が情報提供などの具体的な「就職支援」を求める傾向があるのに対し、男性は人生設計に関する指導などの就職支援にとどまらない「キャリア支援」を求める傾向が見られたことを述べておく。女性のほうが就職に対する不安が全般的に高く、それゆえ大学における就職・キャリア支援を求める傾向が高かったが、このような傾向が見られたことは新たな発見であった。今後はその要因について研究する必要がある。

さらに、不安解消グループ・未解消グループ間でのキャリア支援との関連という点からみると、職業情報不安の未解消Gは、解消Gと比べて自己理解を促す指導への要望が高かった。よって、情報提供のみならず職業情報不安を解消するような自己理解の促進も必要であると考えられる。自己理解を深めることで、どの情報が自分にとって必要なかを吟味でき、情報不安の解消が促されるであろう。

また、他の項目において有意差はみられなかったものの、各々の項目に関して解消Gと未解消Gではキャリア支援への要望が異なる傾向にあったことを述べておく。

6-3. 本研究の成果と今後の課題

さいごに、先行研究との比較から、今回の研究で得られた新たな発見を整理しておく。

なによりも、就職活動以前と就職活動中の不安因子に、大きな変化が見られたということである。先行研究では学年間による比較を行っており、各不安因子に対して学年間での不安の高低を示唆していたが、不安の種類の変化については言及されていなかった。学年間の比較だけでなく、就職活動開始以前と以後における就職不安の比較も今後、さらに研究を進める上で重要だと考えられる。

2 点目に、就職活動中において、先行研究では見られなかった「将来設計不安」が新たに抽出されたことである。近年、若者の職業観の希薄化や、学校現場におけるキャリア教育が注目されて始めているが、こうした問題が、就職活動を始めた大学生において「将来設計における不安」として表れていなかどうか、検討の必要もある。

他方、上記のような成果が得られた反面、今回の研究では調査することができなかったことや、不十分な点も多く残った。名古屋大学の学生に限定された分析結果であること、不安感解消とキャリア支援策との関連に十分な分析項目を用意できなかったことである。全国的レベルの調査研究、就職・職業意識とキャリア支援の実態との関連分析が課題である。

<参考文献>

- 東清和・安達智子（2003）『大学生の職業意識の発達』学文社
- 藤井義久（1999）「女子学生における就職不安に関する研究」『心理学研究』70, pp.417-420
- 小杉礼子（2009）『叢書・働くということ⑥ 若者の働きかた』ミネルヴァ書房
- 溝上慎一（2001）『大学生の自己と生き方—大学生固有の意味世界に迫る大学生心理学』ナカニシヤ出版
- 永野仁（2004）『大学生の就職と採用—学生 1,143 名、企業 658 社、若手社員 211 名、244 大学の実証分析』中央経済社
- 労働政策研究・研修機構（2004）『企業参画する若年者のキャリア形成支援—学校・NPO・行政との連携のあり方』労働政策研究報告書 No.11
- 坂柳恒夫（1993）「高校生の進路成熟に関する縦断的研究」『愛知教育大学教科教育センター研究報告』第 17 号, pp.127-136

- 坂柳恒夫（1996）「大学生の職業的不安に関する研究」『広島大学・大学教育研究センター大学論集』第 25 集, pp.207-227
- 坂柳恒夫（1997）「職業的不安と大学生生活充実度との関係」『愛知教育大学教科教育センター研究報告』第 21 号, pp.79-85
- 下山晴彦（1986）「大学生の職業未決定の研究」『教育心理学研究』第 34 巻, pp.20-30
- 清水和秋・花井洋子（2008）「キャリア意思決定の安定性と変化そして不安との関連—大学 1・2 年生を対象とした半年間隔での縦断調査から—」『キャリア教育研究』第 26 巻, pp.19 - 30
- 下村英雄・木村周（1994）「大学生の就職活動における就職関連情報と職業未決定」『進路指導研究』第 15 巻, pp.11-19
- 浦上昌則（2010）『キャリア教育へのセカンド・オピニオン』北大路書房
- 谷内篤博（2005）『大学生の職業意識とキャリア教育』勁草書房
- 柳井修（2001）『キャリア発達論—青年期のキャリア形成と進路指導の展開—』ナカニシヤ出版